

令和五年度  
高等学校入学者選抜学力検査問題

第一部

国語

注意

- 1 問題は、**一**から**四**まであり、11ページまで印刷してあります。
- 2 答えは、すべて別紙の解答用紙に記入し、解答用紙だけ提出しなさい。
- 3 問いのうち、「……選びなさい。」と示されているものについては、問いで指示されている記号で答えなさい。
- 4 問いのうち、字数が指示されているものについては、句読点や符号も字数に含めて答えなさい。

一 次の問いに答えなさい。(配点 28)

問一 (1)〜(3)の――線部の読みを書きなさい。

- (1) 姉は**多忙**な毎日を送っている。
- (2) 編集長が**敏腕**を振るう。
- (3) 水泳の全国大会に**臨む**。

問二 (1)〜(3)の――線部を漢字で書きなさい。

- (1) 地図では**ほんとう**の名前を調べる。
- (2) 進む方向を**あやまり**、道に迷った。
- (3) 神社・仏閣とその宝物を**はいかん**する。

問三 (1)、(2)の文の [ ] に当てはまる表現として最も適当なものを、それぞれア〜エから選び、文を完成させなさい。

- (1) 縄跳びの難しい技を披露した彼は、[ ]。
- ア 所在ない
- イ 根も葉もない
- ウ 隅に置けない
- エ 身もふたもない
- (2) [ ] 板に付いてきた。
- ア 入学したばかりのため、制服姿が
- イ 入社して二年が経ち、接客の仕方が
- ウ 長年使い続けている、油絵の道具が
- エ 来日して間もないので、日本語での会話が

問四 次のAの文を変えないように、Bの文に書きかえるとき、[ ] に当てはまる表現を書きなさい。

- A 不意に漂ってきた甘い香りは、私の遠い記憶を呼び起こした。
- B 私の遠い記憶は、[ ]。

問五 ある中学校の三年生が、新入生の教室で、中学校の生活や学校行事について紹介することになりました。次は、文化祭のステージ発表について紹介するグループの【話し合いの一部】です。これを読んで(1)、(2)に答えなさい。

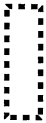
【話し合いの一部】

場面①	
文化祭のステージ発表の様子は、躍動感があった方が伝わりやすいから、動画で見てもらおうのがいいと思うのだけれど、どうかな。	三谷さん
いいね。動画だと、ステージ発表がどんな雰囲気なのか、よく伝わりそうだね。	平田さん
本番だけではなくて、準備の様子も伝えたいな。困ったことが起きたときに、みんなで協力して解決したのは、いい思い出だね。	三谷さん
そうだね。新入生に紹介する時間は5分あるから、準備の様子も動画に入れられそうだね。	平田さん
でも、見る側に立つと、動画を5分も見続けるのは長いと思うな。それに、準備期間の醍醐味は動画だけでは伝えきれないから……、紙芝居はどうかね。	三谷さん
いいね。紙芝居だと、その時の気持ちをうまく伝えられそうだよ。準備期間のエピソードを絵やせりふで表現してみよう。読むときの声の大きさや紙をめくるスピードに変化をつけるとか、色々と工夫ができそうだね。	平田さん
動画にも紙芝居にもいいところがあるよね。	三谷さん
ステージ発表の本番の様子と準備の様子で、使い分けるのはどうだろう。	平田さん
そうだね。では、	三谷さん
	平田さん

(1) 場面①の三人の発言について説明した内容の文として、最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

- ア 三谷さんの考えに、中原さんは具体的なよさをあげて同意し、平田さんは自分の考えを付け加えている。
- イ 三谷さんと中原さんは互いに意見を主張し、平田さんは二人が気付いていない問題点と解決策を示している。
- ウ 三谷さんは自分の考えに意見を求め、中原さんは賛成したが、平田さんは課題を指摘し反対している。
- エ 三谷さんは話を進行させ、中原さんは問題を整理し、平田さんはその解決に向けた意見を提案している。

(2) 場面③で、平田さんは、紹介の仕方について、これまでの話し合いの内容をまとめる発言をしようとしています。



に当てはまる適当な表現を三十五字程度で書きなさい。

私たちが実際に経験するもの、たとえばいま一個の鉄球を手に行っているとしますと、それ私たちはもちろん丸い形をしたものとしても見ますが、その場合の「形」は、色や手触りなどを除き去った単なる形ではありません。銀色に輝く、そしてずっしりと重い鉄球です。またそれを落とせば、落下しますが、それは単なる落下運動ではありません。しまったという思い、あるいは足の上に落ちて大きな痛みを与えるのではないかという恐怖とともにある運動です。この恐怖はただ単に私たちの意識の内側でなされている経験ではありません。それはこのずっしりと重い鉄球とともになされているのであり、それと分かちがたく結びついています。事柄の真実の相を捉える上で、私たちは、このずっしりと重いという感覚やしまったという思いを、不必要なものとして排除する必要はないのです。この鉄球は、銀色に輝きつつ丸い形をしており、しまったという思いを引き起こしつつ落下運動をするのです。

このことを、「こと」<sup>1</sup>には表情があると表現してもよいと思います。たとえば私たちは自分がいま座っている椅子について、ぐらぐらして不安定だとか、逆にどっしりと安定しているとか、安っぽいとか、高価に見えるとか、そういった意識をもって見ていると思います。このような思いが「こと」を作りあげていると言えます。

あるいは普段私が使っている万年筆は、十二、三センチ程度の黒いセルロイド製の物体ですが、それと、使い古したものはあるが他の万年筆にない独特の書きやすさがあるという感覚とは切り離すことができません。またそれは、人生の節々でそれを用いて大切な文字を記してきたという記憶とも結びついています。つまり、この万年筆はさまざまな意味で満たされているのです。あるいは、さまざまな表情をもっていると言ってもよいでしょう。私たちの経験のなかでは、この意味や表情が非常に重要な意味をもっています。そしてそうした表情や意味から「こと」は成り立っているのです。

もちろん私たちは、私たちの生活のなかでつねにこの表情を積極的に意識しているわけではありません。万年筆の材質のほうに関心が向けられ、その表情が背景に退いていることもあります。しかし、私たちの経験をいきいきとしたものに行っているのは「こと」<sup>2</sup>であり、その表情や意味であると言えます。

「こと」の世界こそが真実の世界であると言いますと、いろいろな疑問や批判が出されると思えます。予想されるいくつかの問題点について考えてみたいと思います。

いま、「こと」には表情があると言いました。その表情はもちろん、人によって違ってきます。同じ万年筆でも書きやすくと感じる人もいれば、書きにくいと感じる人もいます。その万年筆のデザインに注目する人もいれば、それを使って書いたときの思い出に<sup>1</sup>浸る人もいます。同じ川面<sup>かわも</sup>を見ても、光を背に受けるか、正面から浴びるかで、その見え方は大きく異なります。雨降りの陰鬱さを嫌う人もいますし、その風情<sup>ふうせい</sup>を好む人もいます。「こと」は千差万別です。

そこから、私たちが経験しているものは、どこまでもあいまいな、そのときどきに変化するものであり、そのあいまいなものが事柄の実相であるとは言えないという意見も当然出てくるでしょう。「こと」は私たちが意識の内側だけで経験している、つねに移り変わっていくものであり、実在の世界を考えるためには排除されるべきものだという考えがそこに生まれてきます。

しかし、私たちが実際に経験している色やにおい、音、あるいはそれに<sup>2</sup>伴うさまざまな思いがただ単に「意識の内面」に属するものであり、事柄そのものとは関わりがないという考えは、

やはりおかしいのではないのでしょうか。

私たちの具体的な経験においては、やはり、先ほど言った「表情」が重要な位置を占めています。私の万年筆は、十二、三センチ程度の黒いセルロイド製の物体であると同時に、さまざまに思いついたものです。両者は別々のものではなく、一体になっています。その一体になったもので、私たちの世界は作りあげられていると言えるのではないのでしょうか。

もう一つ別の例を挙げます。<sup>3</sup>一匹の猛犬が私に襲いかかってくる時、私はただ単に意識の内側だけでその恐ろしさを感じているわけではありません。目の前の犬それ自体が恐ろしいのです。その犬が私の恐怖にじかに関わっているのです。犬そのものと、私の意識の内面という二つの世界があるわけではありません。両者はどこまでも一つです。それこそ事柄の真相であると言えると思います。

もちろん「こと」の第一次性を主張することは、科学的なものの見方を否定するものではありません。それは、私たちが具体的な仕方で見ているものを、それぞれの視点に縛られない三次元空間のなかに置き直して見るということ、さらにはそれを分子や原子の世界として説明することを、無意味なものとして退けようとするものではありません。

ただ、分子や原子からなる「もの」の世界こそが真実の世界であり、色やにおいては私たちが私たちの意識のなかだけで感じているものにすぎない、したがって、真実の世界からは排除されるべきものだという考えに反対するのです。

さまざまな表情をもった「こと」の世界、先ほどの万年筆の例で言えば、それが切なく、懐かしい思いを引き起こすということ、この「こと」<sup>4</sup>の世界を、それぞれの視点に縛られない三次元空間のなかに置き直して「もの」として説明することは、決して否定されるべきものではありません。むしろ、そのことによつて、公共的な言葉で語る場が開かれると言えます。そこに自然科学が成立します。

この二つの見方は共存することができます。しかし、何度も言いましたように、「もの」の世界が真実であり、「こと」の世界が虚妄であるとは決して言えません。美しく咲き誇り、私たちをうきうきとした気分にした桜の花は、それがそのまま真実の世界なのです。そしてその真実の世界を、同時に、分子や原子の世界としても説明することができます。そういう仕方で、両者は共存していると言えます。

(藤田正勝「哲学のヒント」による)

問一 〓線1、2の読みを書きなさい。

問二 〓線1『こと』には表情があると表現してもよいと思います」とありますが、この記述の仕方に関する説明として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア 『こと』には表情がある」と遠回しに述べることで、筆者の伝えたいことを読み手に押し付けずにように配慮している。

イ 『こと』には表情がある」と比喩的に述べることで、筆者が伝えたいことを読み手にイメージしやすくしている。

ウ 「表現してもよいと思います」と断定的に述べることで、筆者の考えの正しさを証明している。

エ 「表現してもよいと思います」と控えめに述べることで、たとえを用いて説明することへのためらいを表している。

問三 〓線2「その表情や意味である」とありますが、「表情」や「意味」を表している文中の語として適当なものを、ア～オから全て選びなさい。

ア 記憶

イ 恐怖

ウ 材質

エ 物体

オ 感覚

問四 〓線3「一匹の猛犬が私に襲いかかってくるとき、……目の前の犬それ自体が恐ろしいのです」とありますが、筆者がこのような例を示した理由を次のようにまとめるとき、  
①、②に当てはまる表現を書きなさい。ただし、  
三十一字で抜き出し、最初と最後の五字をそれぞれ書くこと。また、  
葉を用いて、二十文字程度で書くこと。  
①は文中から  
②は文中の言

私たちの経験をいきいきとしたものにしていくには、  
①  
という考えに対して、犬がじかに私の恐怖に関わっていることを例として示すことで、  
②  
であるということを主張するため。

問五 〓線4『こと』の世界を、それぞれの視点に縛られない三次元空間のなかに置き直して『もの』として説明する」について、次の(1)、(2)に答えなさい。

(1) 〓線4の例として適当なものを、ア～オから全て選びなさい。

ア 雨が降る前に現れるいわし雲の名前の由来を、いわしの群れに見えるからだと説明する。

イ ミネラルを多く含む水は、人によって好みが分かると説明する。

ウ 自分が好きな花火の色彩について、燃焼する物質に含まれている銅の量で説明する。

エ おいしいアップルパイを作るコツは、愛情を込めることだと説明する。

オ 毎年冬に祖母が作ってくれた思い出のシートパイのおいしさの理由を、成分表で説明する。



三

次の文章を読んで、問いに答えなさい。(配点 14)

花はさくら。桜は、山桜の、葉赤くてりて、ほそきが、まばらにまじりて、花しげく咲きたるは、またたくふべき物もなく、うき世の物とも思はれず。葉青くて、花のまばらなるは、こよなくおくれたり。大かた山桜といふ中にも、しなじなの有りて、こまかに見れば、一木ごとに、いささかかはれるところ有りて、またく同じきはなきやうなり。また今の世に、桐がやつ八重一重などいふも、やうかはりて、いとめでたし。すべてくもれる日の空に見あげたるは、花の色あざやかならず。松も何も、青やかにしげりたるこなたに咲けるは、色はえて、ことに見ゆ。空きよくはれたる日、日影のさすかたより見たるは、にほひこよなくて、同じ花ともおぼえぬまでなん。朝日はさらなり、夕ばえも。

(本居宣長「玉勝間」による)

(注) 山桜——桜の一種。若葉は赤褐色で、春、葉と同時に淡紅色の花を開く。

桐がやつ——桜の一種。同じ木に八重咲きと一重咲きが混じって咲く。

日影——日光。ひなた。

問一 〰線「たぐふべき物もなく」とありますが、ここでの意味として最も適当なものを、

- ア エから選びなさい。
- イ 交わるものもなくて
- ウ 間違えるものもなくて
- エ 比べるものもなくて

問二 この文章を学習した生徒が、桜に対する筆者の考えを、次のようにまとめました。これを読んで、(1)、(2)に答えなさい。

見映えのする桜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉が ① く照り映えて、細いのが ③ に混じって、花が多く咲いている。</li> <li>・空がすがすがしく ④ 日に、日光が差す方向から見る。</li> <li>・ ⑤ 日でも、背景に松などの樹木が ② くしげっているこちら側に咲いている。</li> </ul>
見劣りする桜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉が ② くて、花が ③ に</li> <li>・ すっかり ⑤ 空が背景にある。</li> </ul>

- (1) ①、② に当てはまる適当な語を、それぞれ漢字一字で書きなさい。  
③、④、⑤ に当てはまる適当な表現を、それぞれ書きなさい。



問三 この文章の内容に合うものを、ア～エから一つ選びなさい。

- ア 桜というものは、朝日でも夕日でも、十分な日光が当たっているときこそ香りが強くなり、鮮烈な印象を与える。
- イ 同じ種類の桜でもよく観察してみると、一本一本の木ごとに少しずつ違いがあつて、全く同じものはない。
- ウ 桜が咲くときに葉は重要な役割を果たすものであり、どんなに花が美しくても、葉がしおれているのは風情がなく興ざめする。
- エ 様々な種類がある桜の中でも、桐がやつという種類の桜が八重で咲いているのがこの世で最も美しく、素晴らしい。

四

次は、中学生の高木さんが、総合的な学習の時間の「地域の魅力について考えよう」という単元で、同じ班の小林さん、坂本さんとともに、自分たちで設定したテーマについて調べ、レポートにまとめたものです。これを読んで、問いに答えなさい。(配点 18)

テーマ 方言のもつ力

2班 高木・小林・坂本

1. ①

「地域の魅力」について考えるため、地域に特有の言葉である方言に着目した。近隣のX市が方言を観光PRに活用していることを知り、その取り組みについて詳しく調べることにした。

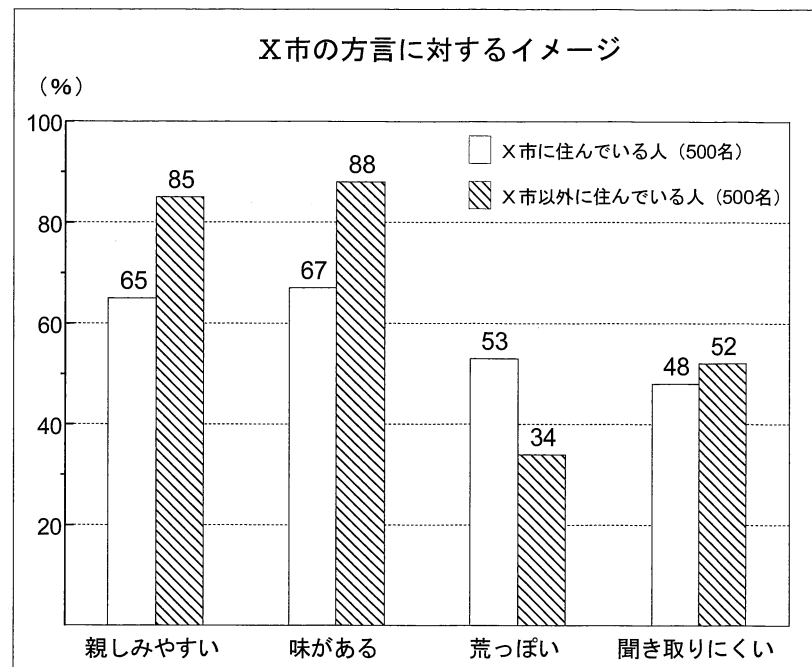
2. ②

- ・ X市役所のホームページの閲覧。
- ・ X市役所観光課職員へのインタビュー。

3. ③

- (1) 方言を観光PRに活用しようとした背景
- ・ 観光課で「X市の魅力」についてアンケートを実施した。
  - ・ アンケート項目の一つである「X市の方言に対するイメージ」について、観光課の職員が予想していたものと異なる結果が得られた。
- X市の方言は観光資源になり得ると気付いた。
- ※グラフ（X市役所のホームページより引用）を参照。
- (2) 活用例
- ・ 方言によるPR動画を作成し、インターネットで公開した。
  - ・ 地域の特産品に方言を生かしたキャッチコピーを付けた。
- (3) 成果
- ・ 方言によるPR動画や、特産品に方言でキャッチコピーを付けたことが、インターネットやテレビなどで話題となった。
- X市への観光客数が前年度よりも増加した。

グラフ



4. 考察

5. 参考資料

「X市の魅力調査」 X市役所 <https://www> ……○年○月○日閲覧

- 問一 レポートの①と③に当てはまるものの組み合わせとして最も適当なものを、ア～エから選びなさい。
- |   |        |        |        |
|---|--------|--------|--------|
| ア | ① 事前調査 | ② 分析方法 | ③ 情報収集 |
| イ | ① 調査目的 | ② 調査内容 | ③ 問題提起 |
| ウ | ① きっかけ | ② 分析結果 | ③ 振り返り |
| エ | ① はじめに | ② 調査方法 | ③ 調査結果 |

問二 — 線「X市の方言は観光資源になり得る」とありますが、X市役所観光課の職員がそのように気付いた理由について、次の条件1～3にしたがって書きなさい。

条件1 解答欄に示した表現に続けて、一文で書くこと。

条件2 グラフの内容を根拠にして書くこと。

条件3 グラフの「X市に住んでいる人」と「X市以外に住んでいる人」を比較して書くこと。

問三 次は、「4. 考察」の①～③について、高木さんが書いた下書き(A)と、それについて、の班での話し合いの場面(B)です。話し合いの内容を踏まえ、(A)を百字程度で書き直しなさい。ただし、二つの文で書くこと。

(A) 下書き

(B) 話し合いの場面

#### 4. 考察

X市では、方言を観光PRに活用したことで、観光客数が前年度よりも増加した。こうした活用例や成果から、方言には、「親しみやすい」や「味がある」といったイメージがあることがわかった。

- (高木さん) 「4. 考察」の下書きを書いたんだけど、なんか上手く書けなくて。どうすればいいかな。
- (小林さん) 一文目の方言の観光PRへの活用について、もっと具体的に書いた方が、観光客数が増加した理由がわかりやすいよね。
- (高木さん) わかった。二文目はどうか。
- (小林さん) 「考察」だから、二文目にはX市の方言の観光PRへの活用例や成果から、自分が考えたことを書く必要があると思うよ。
- (坂本さん) 下書きに書いている方言のイメージは、観光課の方が行ったアンケートの結果だね。それを書くんじゃなくて、レポートのテーマである「方言のもつ力」について、自分で考えたことを書くといんじゃないかな。
- (高木さん) そうか。じゃあ、方言にはどんな力があるかということについて、地域の魅力と関連付けて書いてみるかな。なんか書けそうな気がしてきた。

左の枠は、下書きに使って構いません。解答は必ず解答用紙に書くこと。

240	220	200	180	160	140	120	100	80	60	40	20								